

山形県留学生交流推進協議会

国際交流

やまがた

vol.27 | 2017.3

地域創生、次世代形成、多文化共生 ～学生・職員大使の活用～

巻頭言

山形大学 副学長（国際交流担当） 安田 弘法



日本は今、地域の創生による地域再生、多文化共生による国際化に向かっていきます。これらは、次世代を形成する若人を中心に成し遂げられるでしょう。山形大学は、地域創生、次世代形成、多文化共生を3つの使命としています。

一昨年から「山形県留学生交流推進協議会」は、「山形県国際交流人材育成推進協議会」と名称を変え再出発しました。新たな協議会は、山形県の産官学金が力を合わせて山形の国際化を図り、留学生の受入や日本人学生の派遣、さらには国際交流の活性化に関する諸事業を通じ、国際人材の養成を目指しています。

山形大学は、3つの使命の一つ「多文化共生」の取組としてアジア、南米、アフリカ、ヨーロッパ等の6つの新興国に、学生や職員を「学生及び職員大使」として派遣しています。「大使」は、2週間の派遣により、派遣先の大学の学生に英語で日本語を教え、さらに日本文化や伝統などを紹介します。この事業は「大使」として派遣し、(1) 自分を知り、(2) 相手を知り、(3) 状況に合わせて臨機応変創意工夫できる適応力を持ち、(4) 優れたコミュニケーション能力を持つ人材になる動機付けが目的の一つです。最初は、英語で上手く授業ができなかった「大使」も1週間後には、自らが英語で話している夢を見る等、2週間の派遣を通じ多面的に学び成長します。平成29年度は、この事業も6年目となり、100名以上の学生大使の派遣を目標にしています。英語教育の低学年化が進みつつある昨今、国際的に活躍するには語学も必要ですが、多様な文化を理解し、異なる背景を持つ人々と協働する能力も重要に思います。そのような点から、気軽に新興国を訪問し、英語で日本語等を教える「大使」事業が、山形の産官学金の関係者に活用されれば嬉しく思います。「大使」事業の多面的な展開を通じ、山形が国際化に向かい、地域を創生し、次世代が形成されるのを期待しています。

山形県外国人留学生の現況（高等教育機関関係）

平成 28 年 10 月 1 日現在

1. 費用別外国人留学生数

※単位：人 ※（ ）内の数字は、女子で内数。

区 分	山形大学	東北芸術工科大学	東北公益文科大学	慶應義塾大学 鶴岡キャンパス	東北文教大学	東北文教大学 短期大学部	米沢女子 短期大学	米沢栄養大学	羽陽学園 短期大学	鶴岡工業 高等専門学校	新庄コア カレッジ	計
国 費	26 (7)			1 (1)						3 (1)		30 (9)
マレーシア政府派遣	10 (4)									5		15 (4)
モンゴル政府派遣										1		1 (0)
県 費												0 (0)
私 費	189 (89)	13 (5)	9 (7)			9 (7)						220 (108)
計	225 (100)	13 (5)	9 (7)	1 (1)	0 (0)	9 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (1)	0 (0)	266 (121)

2. 国・地域別外国人留学生数

※単位：人 ※（ ）内の数字は、女子で内数。

区 分	山形大学	東北芸術工科大学	東北公益文科大学	慶應義塾大学 鶴岡キャンパス	東北文教大学	東北文教大学 短期大学部	米沢女子 短期大学	米沢栄養大学	羽陽学園 短期大学	鶴岡工業 高等専門学校	新庄コア カレッジ	計
中 国	96 (52)	5 (3)	6 (6)			3 (1)						110 (62)
台 湾	22 (15)											22 (15)
マレーシア	15 (5)			1 (1)						5		21 (6)
韓 国	7	8 (2)				5 (5)						20 (7)
バングラデシュ	11 (4)											11 (4)
モ ン ゴ ル	8 (4)									1		9 (4)
インドネシア	6 (3)									2		8 (3)
ボ リ ビ ア	7 (1)											7 (1)
タ イ	5 (3)									1 (1)		6 (4)
ア メ リ カ	6 (2)											6 (2)
ベ ト ナ ム	6 (1)											6 (1)
イ ギ リ ス	5 (1)											5 (1)
ケ ニ ア	5 (1)											5 (1)
ド イ ツ	5 (1)											5 (1)
ル ワ ン ダ	4 (1)											4 (1)
ロ シ ア	2 (2)											2 (2)
ラ ト ビ ア	2 (1)											2 (1)
ブ ル ネ イ	2											2 (0)
ベ ナ ン	2 (1)											2 (1)
パ キ ス タ ン			2 (0)									2 (0)
ミャンマー						1 (1)						1 (1)
オ ラ ン ダ	1											1 (0)
ス リ ラ ン カ	1											1 (0)
ウ ガ ン ダ	1 (1)											1 (1)
ホンジュラス	1											1 (0)
ラ オ ス			1 (1)									1 (1)
カ ナ ダ	1											1 (0)
ペ ル ー	1											1 (0)
カメルーン	1 (1)											1 (1)
モザンビーク	1											1 (0)
ベネズエラ	1											1 (0)
計	225 (100)	13 (5)	9 (7)	1 (1)	0 (0)	9 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (1)	0 (0)	266 (121)

3. 山形県派遣留学生の現況（高等教育機関関係）

※単位：人 ※（ ）内の数字は、女子で内数。

区 分	山形大学	東北芸術工科大学	東北公益文科大学	慶應義塾大学 鶴岡キャンパス	東北文教大学	東北文教大学 短期大学部	米沢女子 短期大学	米沢栄養大学	羽陽学園 短期大学	鶴岡工業 高等専門学校	新庄コア カレッジ	計
台 湾	61 (42)											61 (42)
シンガポール										50 (10)		50 (10)
ベ ト ナ ム	26 (15)	6 (5)										32 (20)
中 国	20 (6)		5 (2)									25 (8)
ア メ リ カ	6 (3)	7 (7)	7 (4)		1 (1)	1 (1)						22 (16)
ラ ト ビ ア	18 (7)											18 (7)
ペ ル ー	15 (7)							2 (2)				17 (9)
チ リ	11 (5)							2 (2)				13 (7)
ボ リ ビ ア	11 (5)							2 (2)				13 (7)
インドネシア	12 (7)											12 (7)
ロ シ ア	1		8									9 (0)
ニュージーランド			6 (5)									6 (5)
フィリピン	6 (4)											6 (4)
韓 国	1 (1)					4 (4)						5 (5)
タ イ	2									2		4 (0)
マレーシア										3 (2)		3 (2)
カ ナ ダ	2		1 (1)									3 (1)
イ ギ リ ス	2 (1)	1 (1)										3 (2)
フ ラ ン ス	2 (1)									1		3 (1)
リトアニア	2 (1)											2 (1)
エストニア	1											1 (0)
デンマーク	1 (1)											1 (1)
メ キ シ コ										1		1 (0)
ス ペ イ ン	1											1 (0)
計	201 (106)	14 (13)	27 (12)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	57 (12)	0 (0)	311 (155)

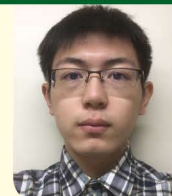
留学生の声

自分のやりたいことを…

「未来への道は自分で切り開く」という考えで両親とはなれ、異国の日本に留学に来てからすでに5年目になりました。東京の日本語学校を卒業して山形市に来た最初、周りの留学生が一気に減ってしまい、町も東京ほど便利ではなく、まったく異なる環境でした。順調に大学生活が始まるかどうか、自分は不安がなかったのですが、先輩方の留学生や学務担当の助けで思ったより早く慣れました。今でも、本当に感謝しています。

山形市の小白川キャンパスでの一年間で、自分は留学生用のラウンジの掲示板を利用して、さまざまな出会いができました。キリスト教会での手伝い、駅で行われた子供たちのクリスマスパーティーのボランティア、多国の留学生が参加した飲み会、そして雪山での

山形大学 農学部 食料生命環境学科 3年
齊 磊 (サイライ) (中国)



合宿など、授業以外の生活は非常に豊かでした。そして、鶴岡市に来てから、漫画研究会のみんなでコミックマーケットやモンゴルでのサマースクールも参加するチャンスがありました。

また、山形県は日本の東北で、自分の故郷とほとんど同じ温度ですが、冬の雪は本当に多くて驚きました。数十センチの雪が積もっている時期に大学にいくのはいろいろ不便と感じましたが、その景色も一種の楽しみです。大都市の東京と違って、生活リズムも緩めで、ストレスもたまりにくいと感じました。

これからの一年間は就職活動や卒業論文を書くため忙しくなると思いますが、同人サークルに協力し、シナリオの翻訳など、他の自分が興味を持つことにも挑戦したいと考えています。

学生大使派遣プログラムに参加して

派遣先をベトナムにして、本当に良かったと思える2週間でした。今回出会えた現地の学生や山大の先輩は自分にとって、とても大きい存在になりました。現地での活動を通してベトナムの学生が日本語を真剣に学びたいという思いが伝わってきて、自分も精一杯出来ることをしようと思いました。また、彼らが毎日勉強を欠かさずしている姿を見て、自分の生活を見直し生活態度を改めようと心から思いました。

今回のプログラムは、僕にとって初めての連続でした。飛行機に乗るのも海外に行くのも初めてで、しかも一人で現地まで行く

山形大学 理学部 物質生命化学学科 1年
永井 仁哉



ということで本当に不安でしたが、無事に現地での活動を終え、帰国できたことは自分の成長に繋がったと思います。ベトナムが本当に好きになり、また行きたいと思いますし、他の国にも行ってみたいと思います。今回の活動を通して、英語が話せたらもっといろんな人とコミュニケーションをとることが出来たと思うので、これからは英語の学習にもっと力を入れていきたいです。大学生には自由な時間が多いので、今のうちにいろんな国にどんどん行って、自分の成長に繋げていきたいです。

真っ白な世界と新たなスタート

時が経つのは早いものです。新入生代表として入学の辞を読ませていただいた日のことはまだはっきりと記憶に残っていますが、ふと気がつけば山形に来てから既に4ヶ月が過ぎ去りました。秋の紅葉は散り、真冬の雪となって降っています。日本に来るのは今回が2度目ですが、前回は新潟に11月までしかいなかったもので、雪国の冬は初めて体験しました。そして、その真っ白な世界に目を見張りながら、こう考えました「この真っ白な世界で新しい生活を始めたら、どんな色を描けるのだろう」と。

東北公益文科大学の大学院生になり、再び楽しく勉学に打ち込み始めました。外国語である日本語と英語を使って様々なビジネスに必要な知識を身に着けることが出来るため、今の環境は大学でビジネス英語を専攻した自分の志向に合っています。私にとっ

東北公益文科大学大学院
公益学研究科 公益学専攻 1年 (修士課程)
田 瑞琪 (デンルイチ) (中国)



て、大学院での勉強は難しいながらもやり甲斐があります。

鶴岡でついに本格的な一人暮らしを始めました。最初の頃は色々なことがありましたが、事務員さんや先生方のお陰で何とか問題を解決し、段々と安定してきました。今ではかなり慣れてきたので、平和かつ忙しい毎日を送っております。

また、授業のない日にはアルバイトをしています。アルバイト先に入ったばかりの頃は、何もかもが新しく、全く違う世界に足を踏み入れたような気がして、戸惑うこともありましたが、先輩方に優しく教えてもらって少しずつ自信を持ち始め、今では殆ど問題なく戦力として役立っていると自負しております。

まだまだ日々奮闘中ですが、新たなスタートとして、この真っ白な世界で自分ならではの色を描き始めたところです。

山形での暮らし

日本に来てもう3年になりました。最初は日本語もできず、一人暮らしをしなければならないという不安ばかりでした。山形は電車やバスが1時間に1本で、通っている短大は田んぼに囲まれ、稲が育つのがすぐそばに見えます。

交通が不便で、ほとんどのところへ自転車で行かなければならず、最初はとても苦労しました。交通が不便で、生活しづらい部分もありますが、山形にはいいところがいっぱいあります。まず1番目は人々の優しさです。いつ何を聞いても優しく教えてくれます。また、夜空には数えられないくらい星がたくさんあり、景色もとても綺麗です。さらに、山形の空気や米、水、果物もとても美味しいです。今思うと交通の不便さは、留学生の私にとってむしろいいことでした。交通が不便なのはよくないこととずっと考

東北文教大学短期大学部 総合文化学科 2年
崔 睿恩 (チェ イェウン) (韓国ソウル)



えていましたが、逆に交通が不便なおかげで私の日本語は伸びました。どこに行くにも自転車で、スマホもなかった私は、道で出会った人にいつも道を聞きました。道を聞くときに単語が出てこないことももちろんありました。そのような日は、家に帰り単語を調べ覚えておきました。また、道を教えてくれた人に感謝の気持ちを込めて何か一言をもっと伝えたいと考え、日本語を少しでも多く覚えようとしたのです。ですから、自転車を使っていたことが、日本語の勉強につながったと思います。

最初は、慣れるかな？という心配だけだった山形の生活を、今ではとても好きになりました。

山形での生活も残り少なくなりましたが、もっと山形を感じたいと思います。

韓国への留学をめぐる『人との関わり』

東北文教大学 総合文化学科 2年
安達 香奈



私は中学の頃からk-popがすきで、音楽だけではなく韓国語や文化にも興味を持ったため、韓国に短期留学しました。留学期間は3週間という短い期間で、夕方や授業がない日は留学中に仲良くなった友達と出かけて楽しく過ごしたので本当にあつという間でした。

私にとって刺激的だったのは、韓国の学生と関わったことです。トウミ制度で留学の間私をサポートしてくれた学生は韓国語を教えてくれたり、おすすめの場所に連れて行ってくれました。日本語が話せる人だったので、お互いの国について話せたことがうれしかったし、リアルな韓国人の気持ちを知ることができてとても印象に残っています。また、先生から語学を伸ばしたいなら韓国

人と話すことが一番ということで、留学生と話してくれる学生のところに行き、宿題をしたり、話をしました。その人は日本語が話せないの、私は習った文法や単語を思い出して使ってみて、わからないことは知っている英語や身振り手振りで言いたいことを伝えました。その後もわたしが食べたい韓国料理を作って寮に持ってきてくれたりと、気にかけてくれました。その韓国人の学生とは今でもSNSで連絡をとっていて、いつかちゃんとした会話を韓国語でするのがわたしの夢です。

『百聞は一見に如かず』実際に韓国に行き、韓国人と関わって初めて知ったことはたくさんありました。これからも気になったら体験してみて、いろんなことを学んでいこうと思います。

アンデス諸国学生派遣プログラムに参加して

山形県立米沢栄養大学 3年
戸津 瑛理子



今回の短期派遣に参加させていただき、3ヶ国で現地の人と同じ雰囲気を感じるということは自分にとって大きな体験になった。現地では、先生、学生の方々が視察、宿泊先で親身になってサポートしてくださり、各国のおもてなしの心を感じることができた。

また、文化、習慣、言語を学び合う上で日本の事を問われる機

会も多く、より自国を理解することも重要であると学んだ。受け身になりがちな単なる参加型異文化理解ではなく、体験を通して自分なりの答えや目標を見出すことのできる自発的なものであった。実際に訪れてみないと分からない、言葉では伝わらないような感覚や環境を共有できたことは、互いの理解をよりいっそう深めるものであり、今後につながる貴重な経験となった。

南米派遣感想

私は南米へ短期派遣をさせていただけたことで、大きく2つの事を学びました。まず1つ目は語学力の大切さです。私の通っている米沢栄養大学では、英会話の授業はあるものの、必修は2年次までとなります。そうすると、社会に出たときには、大きなブランクが生じてしまいます。またグローバル化する現代では、英語のみならず第三言語までもが必要になってきているのです。英語圏でもない違う国に行くことで、その必要性を実感することができました。また、2つ目には食の国境を超える力というもの

山形県立米沢栄養大学3年
徳田 美咲



学びました。どんなに言葉に壁を感じても、食べることと食の話には繋がりを感じられます。そうした意味で、食を通じて各国の文化を知ることが誰にでも共通して出来ることなのです。私は自分の専門とする食を通して、沢山の国の人々と関わるきっかけを作れればと思います。そしていずれは、日本の食のよさと言うものを、より多くの視点から知ってもらえるように発信できる存在になりたいです。

私の留学の体験

私はインドネシアから日本へ来て3年目になりました。私は2014年の4月に来日して、一年間東京で日本語を勉強していました。今は鶴岡工業高等専門学校で物質工学を専門に勉強しています。

私は鶴岡に来る前に東京で日本語を勉強していたとき、鶴岡はどんなところか、高専ではどのような勉強をするのかを想像できませんでした。実際に鶴岡に来て、東京と比べると田舎だと思いました。しかし、山や田んぼに囲まれて非常に綺麗な風景だと感じました。特に大好きな冬るとき、だいたいの地面が雪で覆われてますます綺麗に見えます。なぜ私は冬が好きだというと、雪が見られるからです。私のような熱帯の国に住んでいた人は雪を直接見るのがなかったです。そのため、初めて雪が降るのを見

鶴岡工業高等専門学校 物質工学科4年
イルビン (インドネシア)



たときは非常に感動しました。また、冬といえば、スノーボードやスキーという冬スポーツが体験できる季節です。私はときどき他の留学生と一緒に湯殿山でスノーボードをしにいきます。

私は鶴岡高専に3年生から編入しました。学校が始まった当初は勉強のことで不安でした。一年間東京で勉強した日本語は高専で授業を受けるのにまだ足りないと思いました。しかし、先生方が親切で丁寧に授業を教えてくれるおかげで、日本語で授業を受けることに慣れてきました。また、留学の中で一番いいことは新しい友達ができることです。私は高専に来て新しい友達がたくさんできて、週末に予定がなければよく友達と遊びにいきます。

私は現在4年生で今年大学受験を受けるつもりです。いい大学に入れるように勉強をさらに頑張りたいと思います。

夏季休業を利用したシンガポールとマレーシア短期留学

出発の日、これから始まる異国での生活への多少の不安と、全てが初めての経験となることへの期待が混じりあっていた。シンガポールに到着すると、匂いが日本と全く違うことに気づき、それと同時に異国に対する警戒心が芽生えた。しかし、今回留学したシンガポールのテマセクポリテクニク(以下TP)の学生は、私達を心から歓迎し、迎え入れてくれた。緊張していた心にどれほど安堵感が溢れたことか、今でもこの気持ちは忘れられない。

年齢の近いTPの学生達とは笑いあい、多くのスポットに足を運んだ。そこで見たライオンと魚の守り神(マーライオン)、像の神様(ガネーシャ)、一瞬でインドにワープできる街(リトルインドディア)、肌で感じた焼け付くような蒸し暑さ、異国の文化、初

鶴岡工業高等専門学校3年 電気電子工学科
佐藤 大雅



めて試食したフルーツの王様(ドリアン)と女王(マンゴスチン)、伝えることの重要性を学んだ英語授業。どれも南国のこの地でしか経験できない新鮮で衝撃的な体験だった。

この留学で、今まで閉じ籠っていた殻から解放され、世界を広い目で見る事ができるようになったと思う。TPの学生はもちろんのこと、シンガポールでもマレーシアでも、出会った全ての人が優しくあった。そして助けてくれた。これからは海外で沢山助けってもらった恩返しをしたい。海外の友達に日本を案内したり、日本の友達に海外を紹介する、日本と海外を繋ぐ架け橋になりたい。今もなお揺るがないこの気持ち、忘れられないこの素晴らしい思い出は、一生の宝物になるだろう。

1. 山形県国際交流人材育成推進協議会 総会

平成 28 年 11 月 16 日（水）に山形大学にて山形県国際交流人材育成推進協議会総会が開催されました。

会議では、文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室・佐々木徹留学交流支援係長から、留学生政策をめぐる現状と取組みについて説明がありました。

また、株式会社チノー、ASE ジャパン株式会社から県内企業の国際人材育成の取組みについて、山形県庁から山形県国際戦略に係る取組み等についての説明がありました。各説明に対し質疑応答や意見交換が行われ、今後山形県における国際交流について、産官学が連携を強化していくことが確認されました。

2. 山形県国際交流人材育成推進協議会留学生事務担当者研修会

今回 9 回目となる山形県国際交流人材育成推進協議会留学生事務担当者研修会が、平成 28 年 7 月 15 日（金）に山形大学を会場に開催され、12 の機関から 35 名が受講しました。

この研修会は、各機関の教職員が入国管理局へ留学生等の便宜を図るため、申請取次の資格を取得することを目的として開催し

ています。

今回は、講師として法務省仙台入国管理局審査部門・藤谷聡主席審査官、平山勲上席入国審査官、赤間泳美子上席審査官を迎え、留学生に係る在留関係諸申請や取次制度についての説明がありました。

3. 山形の企業を知り、山形で働こう！

（1）留学生のための山形県内企業バスツアー

山形大学、山形県と本協議会との共催により、平成 28 年 9 月 26 日（月）と 12 月 5 日（月）に企業見学バスツアーを実施しました。

この事業は、留学生が日本企業への理解を深めるとともに県内企業就職を促進することを目的として実施しており、各企業を訪問し、企業の概要説明に加えて施設・工場見学を行い、仕事の内容や商品についての説明を受け、日本企業の仕組みや各企業の方針、留学生に期待されることなどについて理解を深めるものです。

今回は、第 1 回目には 14 名、第 2 回目には 18 名の留学生が参加し、各企業において積極的に質問し、また既に就職した留学生 O B の就職体験談を聞くなどして県内企業やその仕事について理解を深めました。

なお、この事業は、（独）日本学生支援機構実施留学生地域交流事業「公益財団法人中島記念国際交流財団助成」及び山形県「海外展開担い手確保支援事業」からの支援により実施しております。



（2）留学生のためのビジネスマナー講座

平成 28 年 12 月 19 日（月）、山形大学小白川キャンパスにおいて開催し、15 名の留学生が参加しました。

人材育成アカデミー「ローズレーン」の黒田美佳代表を講師に迎え、日本におけるビジネスマナーについてお話をいただきました。これにより、就職活動における言葉遣い、メールのマナー、面接時の留意点などを学び、日本での就職活動に向けた準備をしました。

なお、この事業は（独）日本学生支援機構実施留学生地域交流事業「公益財団法人中島記念国際交流財団助成」の支援により実施しています。

（3）留学生のための山形県内企業合同説明会

平成 29 年 3 月 22 日（水）、山形大学、山形県、ジェトロ山形、山形県国際経済振興機構と本協議会の主催により、山形大学小白川キャンパスを会場に、県内企業 12 社の参加を得て開催しました。

今年度は、留学生の更なる山形県内就職促進を目指し、宮城県や福島県の高等教育機関へも参加を募り、県内外から 60 名以上の学生が参加しました。

留学生は、各企業のブースを訪問し、担当者から詳しい説明を受けるなどの就職活動を行いました。

交流風景



ひがしねさくらんぼマラソン
(山大小白川キャンパス)



えびす夏祭り
(山大米沢キャンパス)



黒龍江省短期留学生受入
(東北公益文科大学)



とびいりワールド茶館
(県国際交流協会)



みんなでぶどう狩りに行きましょう
(出羽庄内国際交流財団)



やまぶきロードプロジェクト
(山形北ロータリークラブ)



芋煮交流会
(米沢市国際交流協会)

山形県国際交流人材育成推進協議会会員名簿

※順不同・敬称略 ※平成29年3月1日現在

区分	機関・団体名	職名等	氏 名
高等教育機関	山 形 大 学	学 長	小山 清人
	東 北 芸 術 工 科 大 学	学 長	根岸吉太郎
	東 北 公 益 文 科 大 学	学 長	吉村 昇
	慶応義塾大学鶴岡タウンキャンパス	所 長	富田 勝
	山形県立米沢女子短期大学・山形県立米沢栄養大学	学 長	鈴木 道子
	東北文科大学・東北文科大学短期大学部	学 長	鬼武 一夫
	羽 陽 学 園 短 期 大 学	学 長	渡邊 洋一
	鶴 岡 工 業 高 等 専 門 学 校	校 長	高橋 幸司
	新 庄 コ ア カ レ ッ ジ	校 長	矢口 亨
国及び地方公共団体	仙台入国管理局酒田港出張所	所 長	鮎川 進
	山 形 県	知 事	吉村美栄子
	山 形 市	市 長	佐藤 孝弘
	米 沢 市	市 長	中川 勝
	鶴 岡 市	市 長	榎本 政規
	酒 田 市	市 長	丸山 至
経済団体	山 形 県 商 工 会 議 所 連 合 会	会 長	清野 伸昭
	山 形 県 商 工 会 連 合 会	会 長	小野木 覺
	山 形 経 済 同 友 会	代表幹事	鈴木 隆一
	一般社団法人山形県経営者協会	会 長	寒河江浩二
	山 形 県 農 業 協 同 組 合 中 央 会	会 長	長澤 豊
	山 形 県 中 小 企 業 団 体 中 央 会	会 長	山本 惣一
	(公益社団法人)日本青年会議所 東北地区山形ブロック協議会	会 長	星川 務
	(公財)山形県国際交流協会	理 事 長	佐々木孝之
国際交流関係団体	山 形 県 青 年 海 外 協 力 協 会	会 長	槇 正智
	庄 内 国 際 交 流 協 会	会 長	山口 吉彦
	山 形 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ	会 長	谷貝 幹夫
	山 形 北 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ	会 長	中村 勝義
	山 形 南 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ	会 長	佐藤 稔
	ライオンズクラブ国際協会 (332-E地区キャビネット事務局)	地区ガバナー	角田 裕一
	国際コミュニケーションレディズクラブ	会 長	井上みやま
	(社)米沢工業会	理 事 長	山崎洋一郎
	(公財)出羽庄内国際交流財団	理 事 長	榎本 政規
	国 際 日 本 文 化 研 究 会	会 長	飯島 武久
	アースネットワーク米沢	会 長	情野 芳明
	株 式 会 社 チ ノ ー 山 形 事 業 所	常務執行役員 山形事業所長	久永 達夫
民間企業等	A S E ジャパン株式会社	代表取締役社長	鍾 智孝
	株 式 会 社 ハ ッ ピ ー ジャパン	代表取締役社長	原田啓太郎
	スズキハイテック株式会社	代表取締役	鈴木 一徳
	株 式 会 社 シ ェ ル タ ー	代表取締役	木村 一義
	株 式 会 社 荘 内 銀 行	代表取締役頭取	上野 雅史
その他	(独)日本学生支援機構東北支部	支 部 長	佐藤 光彦

山形県国際交流人材育成推進協議会運営委員会委員名簿

※順不同・敬称略 ※平成29年3月1日現在

機関・団体名	氏 名
山 形 大 学 副 学 長	安 田 弘 法
東北文科大学・東北文科大学短期大学部 国 際 教 育 セ ン タ ー 長	阿 部 い そ み
鶴 岡 工 業 高 等 専 門 学 校	安 田 新
山形県商工労働観光部観光経済交流局 インバウンド・国際交流推進課国際交流室長	西 澤 恵 子
山形市総務部国際交流センター所長	松 田 明 彦
山 形 県 商 工 会 議 所 連 合 会 幹 事	森 晃
山 形 経 済 同 友 会 副 代 表 幹 事	谷 貝 幹 夫
山 形 県 中 小 企 業 団 体 中 央 会 事 務 局 長	作 田 和 典
山 形 県 国 際 交 流 協 会 常 務 理 事	佐 藤 和 雄
山 形 県 青 年 海 外 協 力 協 会 会 長	槇 正 智
山 形 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ 幹 事	田 中 達 彦
山 形 北 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ 幹 事	小 野 和 行
株 式 会 社 チ ノ ー 山 形 事 業 所	久 永 達 夫
A S E ジャパン株式会社	伊 藤 浩 樹
スズキハイテック株式会社	鈴 木 一 徳
株 式 会 社 荘 内 銀 行	鈴 木 布 佐 人
山 形 大 学 教 育 ・ 学 生 支 援 部 長	成 田 博 昭

山形県国際交流 人材育成推進協議会

国際交流やまがた /vol.27/2017.3

事務局：山形大学教育・学生支援部国際交流課国際交流室内

所在地：山形市小白川町1-4-12

T E L : 023-628-4118

F A X : 023-628-4491

E-mail : rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp